

胆振東部地震に起因した崩壊地での緑化試験による緑化状況・その5

1 はじめに

2018年（平成30年）9月6日に発生した胆振東部地震では、被災3町で4,293haという膨大な面積の森林が崩壊しました。2019年（令和元年）には、崩壊地の森林復旧に向けた様々な実証試験が行われ、その一つとして、当社に関連する技術である「ECO バインド Air 工法（以下「EBA」といいます。）」を主体とした資材を用いた試験が行われています。今回、施工後6年を経過した緑化の状況を確認しました。

【実証試験の概要】

業 務 名：大規模崩壊地森林造成実証試験その2 委託業務

- ・この業務では様々な試験が行なわれており、その中の一つとして EBA に関する緑化試験が実施されています。

発 注 者：北海道

受 注 者：（地独）北海道立総合研究機構

施工年月：2019年9月

施工箇所：厚真町内3箇所（高丘8、高丘9、幌内）

施工内容：「ECO バインド Air 工法」で使用する資材を主体とするスラリーの散布

- ・通常はヘリコプターで散布しますが、今回は小面積なので同様の資材を人力で散布しています。

2 施工地の状況

施工地は厚真町内の3箇所（高丘8、高丘9、幌内）です。そのうち、高丘の2カ所は2025.9.21～22の降雨で路網が寸断されていたため、ドローンによる確認だけ実施しました。

（1）高丘8

この箇所では EBA をはじめ様々な試験が実施されていますが、試験施工地（写真①）が特定できなくなるほど斜面全体に植生が繁茂（写真②）しています。



（2）高丘9

この箇所においても様々な実証試験が行われていますが、全体的に緑化が進んでおらず、厳しい環境であることが観えます。その中で、EBA 施工地は当初から現在に至るまで植生の衰退も見られず、確実に緑化が図られています。（写真③④）

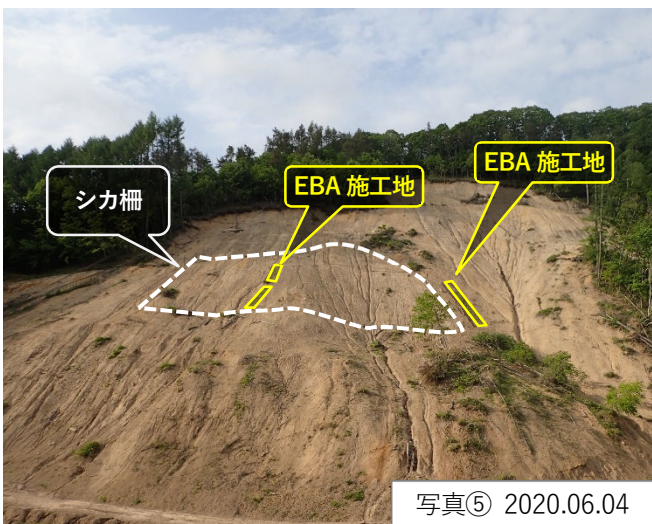
また、シカ柵が損壊しているようですが、写真を見る限り EBA 施工地への影響は見られません。



(2) 幌内

この箇所でも様々な試験が行われ、全体としてある程度緑化が進んでいます（写真⑤⑥）。

その中でも特にシカ柵の外側の EBA 施工地では、周囲の浸食とは対照的に浸食を受けておらず、斜面上部から流下してきた土砂を捕捉している状況も見られます。（写真⑦⑧）



3 終わりに

試験施工から6年が経過していますが、EBA 施工地は厳しい環境下でも植生がしっかりと定着していることが確認できました。今後も、経過観察を続け、EBA の効果をさらに検証していきたいと思っています。